

[トップ](#) > [特集](#) > [もっと知りたい京都・滋賀の病院](#) > [中高年が気を付けたい病気（2025年7月）](#)

# 中高年が気を付けたい病気（2025年7月）

## 考えよう 一人一人の「ウェルビーイング」

# もっと知りたい京都・滋賀の病院+

2025年7月31日 0:00

膠原病・リウマチ

新薬などで「寛解」「治癒」も



京都久野病院 院長 福田 瓦 氏

Q 膜原病とは。

A 自己免疫によって体のさまざまな部分が侵される病気の総称です。自己免疫とは、標的を間違った免疫が自分の体を攻撃する状態で、関節痛や皮膚の湿疹、発熱、だるさなどの症状を引き起こします。膜原病には10種類を超える病気があり、その中で圧倒的に多いのが関節リウマチです。患者数は日本で70万～80万人に上ります。症状は手足などの関節のこわばり、腫れ、痛みであり、ひどくなると起き上がることも難しくなる場合があります。痛みや腫れを放置すると、関節が変形し日常動作に支障を来します。

Q 原因は。

A 十分に分かっていません。遺伝的要素が関係するといわれていますが、1個の遺伝子で発症するわけではなく、複数の遺伝子がつくる「なりやすさ」、いわゆる「体質」が遺伝すると考えられています。診断は、自己免疫の有無を調べる血液検査、関節や内臓を調べるエックス線・超音波検査などによって総合的に行われます。早期の診断が大切ですので痛みがひどくなる前の「こわばり」時点での受診をお勧めします。最近では高齢で発症するリウマチも増えています。

Q 治療法は。

A 免疫抑制剤である「抗リウマチ薬」の投与が中心です。その効果が十分でない場合は、生物学的製剤や分子標的薬などの新薬を使います。過去には難病といわれたこともありますが、今では新薬などにより痛みなどの症状がなくなる「寛解」、薬の必要がなくなる「治癒」となるケースも見られます。日常生活に戻り、仕事に復帰する人もいます。安定期には妊娠出産も可能です。一方で、この病気では患者さんと長い付き合いになること多く、合併症にも目を向けないといけません。その意味で専門医と連携する身近な地域医療の役割も大切だと考えています。